

科目名	国際政治論特殊研究	担当者	ショウジ 庄司 タカユキ 貴由	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>現代の国際政治は、国家を主要な行為主体とするウェストファリア体制が崩壊を迎え、その過程で発生した地球規模の問題への対応に絶えず迫られている。具体的には、地域紛争、テロリズム、貧困、環境破壊など枚挙に暇がない。人類の存続を脅かすこれらの諸問題に、世界はどのように取り組んできたのだろうか。</p> <p>そこで本講義では、まず定評あるテキストを通じ、歴史と理論の流れを俯瞰する。そのうえで、実際の国際政治から誕生した代表的な社会科学の分析手法を扱う。国際政治の歴史や理論の体系的把握のみならず、社会科学的思考も併せて養いたい。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 世界の現状を理解し、説明する力：世界的潮流を踏まえたうえで、体系的な説明ができる。 論理的・批判的思考力：歴史や理論を用いながら、論理的、批判的な思考ができる。 問題発見・解決力：既存の研究や現実から問題を導き出し、独自の考察を展開できる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 (1) 国際政治学の歴史や理論を体系的に理解したうえで、(2) 分析モデルの相違、および歴史分析と理論分析の相違を把握し、それらを用いて独自の分析を展開できるようになる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 レポートの作成1本につき、基本教材、参考文献の読解に少なくとも25時間を要する。加えて、Manaba-Folioでのやりとり（修正作業等）に20時間以上が必要となる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 Manaba-Folioを通じて、教員と院生の間で双方向型の指導を行うこととする。</p> <p>【学修方略 (LS)】 指定教材、その他参考文献の読解。 Manaba-Folioを通じたやりとり。 レポートの作成。</p>		
スケジュール	<p>(1) 最終稿の提出期限は、学事暦で定められている提出期限に準じる。 (2) 前期レポートは7月末までに、後期レポートは11月中旬までに初稿を提出する。その過程では、適宜、質疑応答を行うこととする。 (3) いずれも修正を施し、誤字脱字など確認した後に、提出期限までに最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	60%	先行研究との関係が明確化しているか。 論旨が一貫しているか。 独自性、先見性が導き出されているか。 注、参考文献など基本的な体裁が整えられているか。
	平常評価	40%	manabaでのやりとりを含む取り組み方。 初稿、最終稿の提出期限が守られているか。 コメントに対する修正。
履修者への要望	<p>先人たちの知的恩恵に浴しつつも、5W1Hで研究対象を捉え、自分なりの「視点」や「問い」を見つけて下さい。国際政治という比較的新しい専門領域を通じて、ささやかながらそのお手伝いをさせて頂ければと思っています。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 原彬久編 教材名： 『国際関係学講義 [第5版]』（有斐閣，2016年） ISBN: 978-4-641-14916-8 2,300円+税
	多くの関連書籍と同様に、理論、構造、諸課題を踏まえているが、国際関係における戦後日本外交まで網羅した点が、何より包括性の高さを物語る。また、ミクロとマクロで国際政治の全体像を捉えられるよう工夫も施されている。巻末資料も豊富で、視角教材としても優れた、バランスの良い入門書である。
参考図書	ジョセフ・S. ナイ，ジュニア，デイヴィッド・A. ウェルチ 『国際紛争—理論と歴史 [原書第9版]』（有斐閣，2013年） ISBN 978-4-641-14905-2 2,800円+税
履修上のポイント	(1) 国際政治の伝統的理論と新しい理論を理解する。 (2) 勢力均衡，集団安全保障をはじめ，歴史上の経験から生まれた概念や用語を理解する。 (3) 世界秩序をめぐる国際政治を理解する。 (4) 現代の国際政治が直面する地球規模の問題を理解する。
レポート課題 1	冷戦期の国際政治とポスト冷戦期の国際政治は、何が、どのように異なるのかを論じなさい（4,000字程度）。 留意点： 歴史的，構造的に論を進める。
レポート課題 2	リアリズム，リベラリズムなど基本教材 1 で書かれている理論のいずれかを用いて，自ら関心があるテーマを分析しなさい（4,000字程度）。 留意点： 理論を選択した理由を，必ずレポートの中で明記する。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： グレアム・アリソン，フィリップ・ゼリコウ 教材名： 『決定の本質—キューバ・ミサイル危機の分析 第2版 I』（日経 BP 社，2016年） ISBN:978-4-82-225128-4 2,400円+税
	ケネディ政権で国家安全保障会議（NSC）のスタッフを務めたアリソンが，キューバ危機をめぐる米ソの行動を分析した研究書である。キューバ危機の分析としてもさることながら，①合理的アクター（合理的行為者）モデル，②組織行動（組織過程）モデル，③政府内政治（官僚政治）モデル，という分析枠組みを導き出した古典的名著として，今なお位置付けられている。
参考図書	グレアム・アリソン，フィリップ・ゼリコウ 『決定の本質—キューバ・ミサイル危機の分析 第2版 II』（日経 BP 社，2016年） ISBN 978-4-8222-5129-1 2,592円（税込）（本体価格不明）
履修上のポイント	(1) I，II，共に通読し，全体の大まかな流れを掴む。 (2) 歴史分析と理論分析の相違を理解する。 (3) 三つのモデルの相違を理解する。 (4) キューバ危機は，著者が選んだ分析の「事例」であって，あくまで分析の「手法」を理解する。
レポート課題 1	歴史分析と理論分析は，一体，何が共通し，何が相違するのだろうか。各自で具体的事例を交えながら論じなさい（4,000字程度）。 留意点： キューバ危機を事例とするのではなく，あくまで自身の研究上の問題関心にひきつけて論を進める。
レポート課題 2	アリソンが導き出した三つのモデルのうち，いずれか一つ以上を必ず選択し，自身の研究テーマを分析しなさい（4,000字程度）。 留意点： レポートのどこかの部分で，モデルを選択した理由，あるいは組み合わせた理由を必ず明確化する。